所属名	表現活動教育系
研究課題名	材料の特性に着目した工芸学習の実践
研究課題概要	本研究の目的は、園児・生徒が材料の特性を生かした工芸活動を通して、手や体で感じる体験からの気づきや、そこから得る学びを明らかにすること。そして、年齢や発達段階に応じた工芸学習の方法、環境の構築を模索することである。幼稚園では土粘土遊びでの、その感触の変化を楽しみながらの造形活動を中心とし、最終的に焼成してやきものに完成するまでの工程を体験した。また、完成までの工程がいくつかあり、最終的な完成は最終工程を経なければわからない。ちらも、完成までの工程がいくつかあり、最終的な完成は最終工程を経なければわからない。あまは焼成、染色は染めの工程後に輪ゴムや紐を解くまで完成を見ることはでき楽しんでいた。完成後は、条色がかった土粘土が硬が動のある器に変化してい不思いの自なイラックの大きまり模様が現れたことに対して、不思さやおもしろきを感じる園児の姿が多く見られた。完成して初めた意情が、「これは、あの時〇〇したからだ」「ここは、もっと〇〇になると思ったんだけど」というように、自分が取り組んだ工程をふりかえり、その時の気持ちを周りの人たちに伝え共電の鑑賞会では、どのようにして模様を作ったかなどのふりかえりに加え、どこに着て行こうか、器には何を入れようかなどの様々な想像が広がっていた。完成したものを、家で使用したり身につけたりする喜ばるのよりに対した。完成したものを、家で使用したり身につけたりする喜びな恋をあることできるのは、工芸学習ら、本芸体験では、染めることとかることを存とに繋がった。その姿は園児が自分の生活に取り入れることを喜ぶこととのた。完成したものを園児が自分の生活に取り入れることを喜ぶことを表しただ。完成したものを園児が自分の生活に取り入れることを高いたができるのは、近天完成したものを園児が自分の生活に取りれることを高いたが表しただ。活動内容ととしては「成形」「仕上げ」「模様つけ」「施軸」「動画による焼成の説明」である。授業前にアンケートを取り組んだ。1/3の生徒(グループ I)は附属小にて成形、模様つけ、施軸、焼成(見学)の工程を体験しており、1/3の生徒(グループ I)は附属小にて成形、模様でけ、施軸、焼成(見学)の工程を体験しており、1/3の生徒(グループ I)は附属小にて成形、模様でけ、施軸、焼成(見についてはのよりにやすでのの選択肢を「つらのスコアが認めがある生徒、ない生徒に分かれて活動に取り組んだ。1/3の生徒(グループ I)は附属小にて成形を検なしてあった。そ項目に対する不満で入場に対いなが発すでの問題を表しておりに対なのよりに対していましなが表れて、201に対する不満で入満に対した。201に対した。201に対する不満で表のでので、現れに対していた。201に対するでい、現れに対していたの情報を発した。とないな知识を終なしていていては文章中の言葉を整理するためにテキストマイニングを行い、類出話と共起ネットワーク図と比較考察した。

明らかになったことの一つは、成形工程における「粘土伸ばし」「形づくり」 の項目については、グループIの生徒はグループIIの生徒よりも自分の思い通り

た関心であった。
心を持った工程であり、特に経験のない生徒にとってはネガティブな感情を伴っ
でない工程があるということだ。施釉工程については全グループの生徒が最も関
ことが明らかになった。1度目の体験が2度目の活動に大きく影響する工程とそう
かった。つまり、これらの工程については陶芸学習の経験の有無による差はない
関わらず、「模様つけ」「ゆうやくかけ」の項目では有意な主効果は認められな
についての学びが活かされた結果と推測される。また、陶芸学習の経験の有無に
にできたと満足感を得ていることである。これは前回の経験から、土粘土の操作

研究課題の構成員 (リーダーに※)

* 谷村さくら(美術・書道教育部門)、佐藤 賢司(美術・書道教育部門) 宣 昌大(天王寺中学校)、吉永 純子(幼稚園)

※様式は頁数が増えても差し支えありません。